（様式3）　　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1272201136		
法人名	有限会社　ツェルン		
事業所名	グループホーム・オアシス		
所在地	千葉県柏市柏下218		
自己評価作成日	平成22年2月26日	評価結果市町村受理日	平成22年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ＡＣＯＢＡ
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	2010年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

北柏駅より徒歩１５分の便利な地にあり、大学病院や老人保健施設が隣接している為、緊急時には高度な医療の受診が可能である。また周辺には柏公園、ふるさと公園、文化会館なども近く、自然豊かで緑が多い為毎日欠かさずに行っている散歩では四季の移り変わりを肌で感じる事ができる。建物は平屋建て全館バリアフリーの安全な設計になっており、約8畳の個室と日当たり充分な談話室、中庭からの光を取り入れた開放的な造りは、入居者及びご家族にも好評である。特色としては、夏季は毎日の入浴、三食手作りの食事には家庭菜園の無農薬野菜も利用している。また食事作りには入居者も参加して一緒に食事作りを楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当ホームはホーム長がご自身の介護経験から、認知症の高齢者に「穏やかで安らぎのある生活が継続できる場を提供したい」との思いで、自然や医療環境に恵まれた当地に、長年温めて来た構想を具体化して立ち上げたものである。入居者は日中は居間の他に日当たりの良い複数の談話コーナーで思い思いの生活を楽しんでおり、広い花壇の有る中庭にはいつでも自由に出られるようになっている。また、お琴や茶道の先生をしておられた方など多趣味な利用者が多く、居室から懐かしいお琴の演奏曲が流れて来ることもあり、センスの良い暮らしぶりが感じられる。職員の明るく丁寧な対応に支えられて家庭的で誰もがお世話になりたいようなホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) ＋ (Enterキー) です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフからの意見をまとめて作り上げた「おだやかな笑顔とより添えあえる暮らしを私たちの心で応援します」を理念とし、常にスタッフ、家族の目の届く所に掲示している。	当ホームの理念は設立時にホーム長の思いをスタッフと共に話し合い作り上げた、心のこもった理念である。ホーム内の掲示はもとより、マニュアルの空きスペースなどにも太字で理念を記載し、常に関係者の目に留まるよう工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩時に犬の散歩をしている方や近所の方と挨拶を交わし、近隣の農家の方からは野菜をいただくなどの交流がある。また、昨年から呼塚町会に加盟した。	玄関に隣接した日当たりの良い談話コーナーの窓は開放されており、散歩途中の近隣の方と利用者の交流の場となっている。自治会への加入も当初は困難であったが、ホーム長が地域貢献に尽力される中で昨年加入が実現した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームは常に相談窓口として開かれている。また、キャラバンメイトの資格を持つスタッフがおり、地域の方々に向けての取り組みを準備中。地域包括支援センター主催の認知症相談会にアドバイザーとして出席している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に3回、入居者と家族が各棟1名ずつ参加し開催している。ホームの運営についての報告、今後の話し合い等をして、サービス･ケアの向上に努めている。	運営推進会議には、毎回柏市地域包括センター職員、民生委員、家族代表等約10名強の参加を得て本年度は3回開催した。ホームの運営状況や看取り、スプリンクラー設置等当面する課題についても意見交換をし、実現に向けて歩を進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアサービスや運営について常に相談し、市役所からも質問や相談を受けている。	ホーム長が柏市グループホーム連絡会の役員を務めており、職員がその事務局やホームページの管理者として積極的に活動しており、行政もよく連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A棟では無断外出してしまう方の家族からの依頼により、玄関の施錠のみして、ベルを取り付けている。B棟は玄関の施錠はないが、出入り時に分かるようベルを付けている。	身体拘束が必要な利用者はいないが、県の身体拘束廃止の研修には積極的に参加し、理念に掲げるおだやかな生活の支援に努めている。A棟玄関のみの施錠であり、広い花壇のある中庭には自由に出られ、開放感のあるホームである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	柏市虐待防止委員をホーム長が務めている。また、県の研修を受けた職員がおり、虐待防止マニュアルを設置し、全職員の周知を徹底して防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については家族と相談のうえ勧めており、最近利用する方も増えている為、職員に学ぶ機会を設けてもっと活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	事前に契約書を渡し、よく読んできていただく上、契約当日も時間をかけて項目ひとつずつについて読み合わせ、不明な点は納得がいくまでご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは来所時や行事の際に管理者、職員と話す時間を設け、ご希望や意見などを聞き取っている。内容は会議などで話し合い、反映させている。利用者とはゆっくりと話す時間を多く持ち、何でも話せる信頼関係を築くよう努めている	家族の来訪が多く、来訪時のコミュニケーションを大切にしている。また、毎月のように趣向を凝らした季節の行事を行い、家族間の連携を深めることにも繋げている。利用者アンケートでも「家族の困っていることを良く聞いてくれる」との回答が年々高まっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のスケジュール会議には全職員が参加し、意見を交換の場を設けている。また、ホーム長と職員が個人面接を行い、個々の意見や提案を聞く機会を設けている	職員のチームワークは大変良くて、日々の気付きについてはミーティングや連絡帳などで対応し、テーマによっては毎月の全体会議の議題としている。また、年に1度はホーム長が全職員に対して個人面談を実施し、コミュニケーションを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	就業の環境には常に気をつけており、今年は分煙化を行うなど、環境整備に努めている。また、個別面接を行うことにより、個人個人の目標や労働条件の希望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市内の研修等に可能な限り参加できるよう配慮し、回想法などの資格取得を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市のＧＨ連絡会主催の交流会や研修会があり、他のＧＨとの意見交換の場を設けている。また市内のＧＨの見学会などもあり、サービスの向上に役立てている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期は特に急激な環境の変化に馴染めず動揺している為、本人の不安な気持ちに耳を傾け健康面精神面共に充分な配慮をする。また他の入居者との輪の中に入れるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談時から家族の想いをしっかりと伺い、どんな相談でも気楽にお伺いできる関係づくりに努めている。家族の不安解消もケアのひとつとして考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の現在の生活の様子やご家族の悩み、ご要望等を聞き取り、その時に必要なケア方法、サービス利用提案している。また、待機を希望される方には入居までの期間に利用できるサービスなどをご案内している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の好きな事や体験談を聞き、新しい家族の一員として暮らしていけるように、得意分野を生かした暮らし方を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に連絡を取り合い、ケアについて相談し合っており、ご本人を家族とスタッフの両方で支え合う環境を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が使い慣れたものを使っていただいたり、友人との手紙や電話のやり取りなども支援している。	ホームは家族や友人が訪問しやすく、利用者とプライベートな時間をゆっくりと過ごせるように配慮をしている。介護が必要となって住み慣れた地域から呼び寄せられて入居している利用者は馴染みの関係の継続が困難であるが、毎週家族との外出を楽しんでいる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の共通の話題などから友人関係を築けるように支援している。また、1日1度全員で行えるレクを開催するなどして気の合う友人を見つけられるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方が遊びに来たり、転居先に訪問したり手紙を書いたりしている。家族とも連絡を取り合い、退所後のケアに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1で話し合う機会を設け、日常の生活や話の中からご本人の思いや要望をくみ取っている。	昔の懐かしい思い出を引き出し共感して心の安定を図る「回想方」を職員が講習会で勉強し、日常の支援に活用している。傾聴することにより意向や希望を把握し、利用者の思いに寄り添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを元に直接ご本人や家族にこれまでの暮らし方を聞くなどして、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェックを毎日欠かさずに行い、ひとりひとりの状態の変化に迅速に対応している、また、レクで体や頭の体操などを行い個人の好きな事や得意な分野をより多く見つけ、充実した暮らしができるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議でケース会議を行い、個人の状況およびケアの方針を話し合っている。ケアプラン更新時にはケース検討会を行って家族、職員の意見をケアプランに反映させている。センター方式も取り入れている。	本人と家族の意向をもとに課題を職員会議で検討して介護計画を作成している。 計画作成担当者がモニタリングを実施し、計画を更新している。	介護計画を家族によく説明し一緒に話し合っている事が利用者アンケートから伺えるが、ケア目標の評価を更にしっかりと行い、達成度を計る取り組みをされることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を細かく記録し、スタッフ全員が共通の情報を共有し把握できるようにしている。また緊急時には細かい情報や記録内容が重要な要素となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	暮らしの中で利用者に何が必要なのかを考え見極めた上で、その時々できる範囲で柔軟に対応しサービスを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	紙芝居や絵手紙、家庭菜園などの多くのボランティアに支えられており、充実した暮らしを送る上で大切な要素となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診に来て頂いている病院以外でも、ご本人、家族の希望があれば以前通院していた病院などにも通院が可能である旨ご説明をしている。	入居前からのかかりつけ医への通院希望時は家族が対応しているが、他科を受診する時や急変時には職員も同行し、症状や状況の説明を行っている。ホームには月に2回提携医師の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニット週に1回看護師が勤務し、心身の状態のチェックや薬の飲み方、薬の管理などを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの提供や生活状況等を詳しく話し合い、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には普段の生活から変わった事があれば逐一を報告し、現在の段階と、ホームで出来る事を看護士を交えて説明し、話し合いをしている。今後看取りに向けて、ホームとして出来ることを明確にして取り組んでいきたい。	入居時に重度化に向けた指針を説明し、利用者家族の同意を得るとともに、重度化が考えられる場合は繰り返し家族と話し合いを重ねている。本年度よりホームでの看取りについて、運営推進会議の議題としたり、家族からアンケートを取る等、具体化に向けての取り組みを始めた。	看護師による「看取り」の職員研修を計画するなど着実に準備を進めているので、安心して納得した看取りが受けられる体制の早期実現を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、対応できるようにしている。年に1度、消防署に依頼をして救急隊の方からもご指導いただき、職員の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の訓練のうち、1回は消防署に依頼、1回は独自に避難訓練を行い、全職員、入居者が避難できるようにしている。場所柄、地域との協力が難しい為今後の課題としたい	ホームではこれまで昼間に避難訓練を実施してきたが、最近夜間の出火を想定して予告なしに訓練を行い、問題点を抽出することができた。また、毎年ＧＨ連絡会主催の消防署による訓練に職員が参加している。スプリンクラーの設置も年内に完了する予定である。	地域との連携作りに努力しており良い関係が築かれつつあるので、災害時の協力も得られるような関係作りを期待したい。また非常用食料及び備品の備蓄を検討していただきたい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護のため、誓約書を書いてもらい、徹底している。また、一人一人に合った声掛けし、尊厳を損なわないよう気をつけている。	トイレ誘導時に他の利用者に聞こえない配慮をし、居室に入る時にはノックのみならず声を掛け敬意を払う細やかな気遣いを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団の場が苦手な利用者には個別に話し合うなど、その人が思いを伝えやすい場を作り、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を尊重し、なるべく自分のペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選べる方には好きな洋服を着て頂き、おしゃれを楽しんで頂いているが、冷え･むくみ･厚着などには状況に応じて声掛けをしている。また訪問美容室を利用し、ご本人の希望を聞きながらヘアスタイルを決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が一番の楽しみになっている。配膳や下膳等お手伝いができる方にはお願いし、強要はしないようにしている。B棟では新しくお料理のお手伝いができる方に当番制で参加していただく試みをしている。	食事の準備を利用者の当番制にしたり、テーブルを拭く係りなど役割分担をして実施している。敷地内の菜園で育てた新鮮な野菜が食卓にのせられ、楽しく食事できる工夫がされている。誕生日メニューは利用者の希望を詳しく聞いたものを提供し喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を献立表に記入し、それを基に偏りのない食事作りを心がけている。水分量には特に気を付けており、水分量の確保に努めている。食事方法や調理方法なども工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食堂の洗面には常に口腔ケアの準備があり、朝夕の歯磨き、洗浄消毒を行っている。また週に1度の往診歯科では定期的に歯科衛生士による歯垢、歯石の除去を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの残存能力を生かしたケアをしている。排泄パターンを記録しスタッフが把握することで、声掛け･誘導などにより、自然に排泄できるよう支援している。	ホーム独自で考案した詳細な排泄表を２４時間記録し、排泄リズムを把握して個人に合わせたトイレ誘導を行っている。できるだけトイレで排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質を多含む食事や、レクや散歩などで自然に排出できるように努めているが、どうしても必要な場合はドクターに相談し、薬の利用もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴順番はご本人の希望に添えるように努めており、入浴を楽しんでいただく為に気の合う友人と一緒に入れるように工夫している。夏季は毎日入浴できるようにしている。	利用者は冬は一日置きに、夏は全員が毎日入浴している。気の合った者同士が一緒に入浴を楽しんでいる。浴室に浴槽が二つあり、衛生面の配慮がされ気持ち良く入浴できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	談話室、食堂、座敷など、くつろぎのスペースを確保している。また、リネンの洗濯、こまめな布団干しなどにより安眠できるよう工夫している。就寝時間なども個人の睡眠パターンを把握し、個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳を活用し、別ファイルに薬の種別･作用をまとめ、誰にでも分かるようにしている。また薬の管理は看護士が行っている。薬について疑問がある場合はかかりつけのドクター、薬剤師に常に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩好きの方には個別でも対応したり、できる方には自室の清掃や食事作りのお手伝いをお願いしている。レクなどで気分転換を図るなど、喜び、笑いのある時を一瞬でも増やせるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事などで花見やお買い物を企画したり、個人の要望により個別外出も行っている。また年に1度ＧＨ連絡会のバス旅行にも参加して、家族も同行し、遠方にも出かけられる支援をしている。	天気の良い日には毎日必ず、散歩に出かけることが日課になっている。リビングからすぐ中庭に出られるので気軽に外気浴を楽しむことが出来る。また、外食に出かけたり、年に一度はＧＨ連絡会のバス旅行に家族と一緒に参加している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「物盗られ妄想」を訴える方が多く、混乱が多い為、ご本人とご家族に説明してホームで立替払いの形をとっている。スタッフ付き添いでお買い物をする際に支払いをしてもらうなど、お金に触れる機会も作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人、家族からの手紙にはお返事を書いてもらうよう声掛けをし、必要な場合はスタッフがお手伝いしている。お電話は必ず本人に取り次ぐなど、個別に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感のある飾り付けやガーデニングを行い、明るく華やかになるよう工夫している。中央には中庭があり、光が入る明るい作りになっている。またトイレ、浴室などは温度差に注意している。	リビングは季節の花が咲く広い中庭に面し、明るく気持ちの良い空間である。菜園の野菜を庭先に見ることが出来る。食卓テーブルの横に縁側付きの和室があり、そこで食事している利用者もいる。人の気配を感じる所で安心して昼寝もでき、快適な集まりやすい場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内2か所にある談話室にテレビ、お茶などを設けて、歓談できる憩いの場として利用している。季節によって中庭を開放し、ベンチで日光浴をする方も多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく本人が利用していた家具や思い出の品などを持ち込んでもらっている。希望があれば仏壇の持ちこみも可能である。	居室は馴染みの家具を活かし、家族や昔の写真を飾り、利用者が居心地良く過ごせる工夫を家族と共に配慮している。琴を演奏したり、裁縫道具を置いて刺し子をしたり、これまでの楽しみを継続でき、ほっとできる「オアシス」となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、手すりにより、ひとりひとりが自力歩行できるようになっている。また、居室のネームプレートやトイレの位置などを分かりやすくする工夫をしている。		